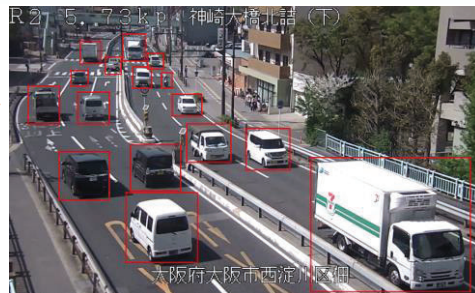


交通流のデジタル・センシング・ネットワークを拡大

近畿地方整備局が管理する国道では、平常時、災害時を問わず、交通の円滑性や安全性を更に向上させていくために、交通流の人力による断片的な計測からデジタル技術による常時・連続的な計測へと転換しています。これらの取得したビッグデータを活用して、地域の交通課題を可視化し、ピンポイントで効果的な対策を講じることが可能となります。デジタル技術を用いたセンシング機器として、交通量や車両の動態データを計測するための「CCTVカメラ」、速度や急加減速、経路データを計測するための「ITSスポット」等の整備を進めています。

CCTVカメラ

交通量・車両動態データ



整備済(R6.3)：1430箇所
R6年度整備台数：96箇所
R7年度整備予定台数：50箇所

CCTV計測カバー率※ (R7.3現在 近畿地整管内)

高規格道路
(252.7km)

79% (199km・508箇所) AI搭載率18.7%

雪寒地域の
直轄国道
(583.7km)

47% (272km・519箇所) AI搭載率24.7%

その他の
直轄国道
(1196.7km)

25% (293km・540箇所) AI搭載率15.6%

※CCTV計測カバー率：設置したCCTVカメラで見通すことができる道路の延長/道路延長
(参考)CCTV 1台あたり平均約500mの道路延長を監視

[【関連ページ】ライブカメラ](#)

ITSスポット

速度・急加減速・経路データ



ITSスポット計測カバー率※

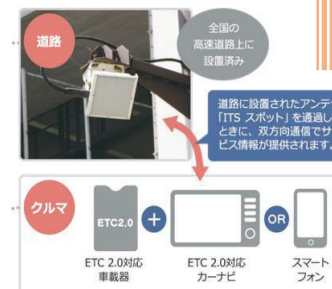
(R7.3現在 近畿地整管内)

直轄国道
(1954.4km)

98% (1919.7km・240箇所)

データ活用事例

「渋滞による事前の注意喚起」や災害等発生時に「広域的な通行止などの規制情報」の啓発



※ITSスポット計測カバー率：ITSスポットを標準的な設置間隔で設置済の延長/道路延長
(参考)標準的な設置間隔は、高規格道路で概ね30km間隔、
その他の直轄国道で概ね10km(市街地部)～20km(その他)間隔

[【関連ページ】ITSについて](#)